

## 第10回電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会議事録（概要）

平成28年3月30日（水）13:30～15:45

伊勢市観光文化会館4階大会議室

### ○あいさつ

（三重県環境生活部次長 林）

皆さんこんにちは。三重県環境生活部次長の林でございます。今日は年度末のお忙しい中ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。事務局としまして私の方から一言口火を切らせていただきます。

当協議会でございますが、平成24年8月に設立されまして、これまで9回会議を重ねて参りました。その間に25年の3月には、この低炭素社会の構築に向けた行動計画である、「おかげさま Action！」を作成していただいたということでございます。

この行動計画でございますけど、4年間という短期目標をまず決めまして、県としても4ヵ年事業ということでやってまいりました。皆さまと共に取り組んで参ったんでございますが、特に今年度はFM三重さんの「fun to Share」事業とタイアップさせていただきまして、小型EVを活用したモニターツアーやスタンプラリーなどの観光企画も実施することが出来ましたし、また、協議会の参画者の方々にFM放送に登場していただいて、協議会の取り組みを情報発信して頂いたところでございます。さらに、ピカチュウ電気バスの累計乗車人数も10万人を超えるなどして充実した1年間だったと思っています。

あとトピックといたしまして、今年2月22日に東京で第7回EST交通環境大賞表彰式がありました。その中で、当協議会の取り組みが奨励賞を頂いたわけでございますが、私も事務局として参加をさせていただいて、お昼の時間に受賞者が集まった中で情報交換をさせていただきました。その時、大賞は逃したんですが、奨励賞としての伊勢市の取り組みが、正直言って、一番話題の中心になったと思っています。それは、産官学が一体となって取り組んでいるのが、申し訳ないですが、他の取り組みは在り来たりだなと思ったんですが、こうやって具体的に取り組んでいるのは珍しいんだろうなと思います。たしかに、「取り組んでいて、やっていますよ」というのはありますが、長く続くのはあまりないと思っています。そういう意味では、全国に胸を張ってもいいのかなって思います。

ただ、これからの取り組みが一番肝心かなって思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

あとよいよ5月には伊勢志摩サミットが開かれると。ちょうど昨年5月29日でしたか、協議会で、この場ではサミットは決まってませんでしたが、ひょっとしたらサミットが来るかもしれませんので、その時は皆さん頑張りましょうねって言ったのが現実になりました。県としましても、何とかそれを具体化して全世界に発信したいなといろいろと画策しているんです。経産省へも知事とともにいろいろ要望化するのに行きまして、経産省の中の自動車課の補佐さんたちに、三重県の取り組みに評価を頂いて、いろいろアドバイ

も頂いておりますので、この機会にそれらを生かして何とか盛り上げたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

本日は、本年度最後の会議になります。EVの普及はまだまだこれからですので、この「おかげさま Action！」が10年間の長期計画ということでもございますので、皆さまの取り組みがますます充実するよう、今日は忌憚のない議論をお願いしたいということでございます。どうぞ、本日はよろしくお願いいたします。

(伊勢市 藤本副市長)

皆さま、改めましてこんにちは。ただ今、県の林次長さんから既にご紹介頂きましたけれども、今年になりましてESTの交通環境大賞奨励賞をいただきました。

これも、平成24年8月設立以来、朴会長さんのもとで皆さんがそれぞれの立場で参画をして頂いてご支援をいただいたと。それが全国的に高い評価を得ているということでございますので、本当に感謝を申し上げたいと思います。モデル事業としては今年度で最後になりますけど、引き続き皆さんの参画を得て、この伊勢市に限らず、この地域、その環境づくりに取り組んでまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それと、この3月になりますけど、朴先生の方から本を出されまして、先ほど価値が上がるかもしれないということでサインをいただいたばかりなんですけど、「亀山学」ということで、亀山の地域づくりに積極的にリードしてみえまして、この本の中に環境のことがありまして、環境と言うのは自然環境に限るのではなくて、人間環境、伝統文化環境、そこにまで広がって行って、その地域の未来につなげていくというようなことが書かれてありました。で、もう一つ、遺産を資産として、残すを生かすとして、そういった取り組みが必要。まったくその通りやと思います。幸いにしまして、今年5月にサミットが開かれます。

そして今年は伊勢志摩国立公園の70周年という節目の年になりましたけども、こういった大きなチャンスを生かしながら、自然環境、人間の営みの中に出てきた文化という環境、こういったものを生かしながらこの地域の未来に繋げていきたいと思いますので、引き続き皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。本日もよろしくお願いいたします。

(朴会長)

改めまして、皆さまこんにちは。早くも協議会と言うのは、非常に作るのは大変なんですけど、一旦作っていけば、さまざまな機会、チャンスの時にスッと、さらに次に繋がるような所に無限に広がるんだなというのを、私いろんな形で関わっていたものの、特に伊勢の低炭素社会を作るためにどうしたらいいんだろうということで、まず乗り物から考えましょうかということで、ある意味では非常に楽観的な人でありながらも楽観モードでやってみませんかというようなことを県と市と話し合った時に、私はやって行きたいと、非常に単純な考えの中で手を挙げたという覚えがあります。それで一旦始まったものの、非常に痛感しているのは、やっぱり地域は何を考えているのかということをや

らないと、いくら理想が高くて、いろんなメリットがあるよって言っても、これはあくまでもよそからのものであって、この地域で生活していらっしゃる皆さまのところに響くようなものじゃなければ絵に描いた餅なのかなってことも、平成24年8月にやっていきましようってなったときには、国からのいろんなことでは上手くいってるなどか、乗り物を始め、日本のそうそうたる企業、地元のそうそうたる企業、そういったような方々の力でなんとかなるだろうと思ったのが、そんなに簡単ではないよねということに身染みて感じる事が出来た一年目でありました。

そこから次が、式年遷宮もいよいよ始まりますし、1千万人、あの当時はそうかなと思ったら、蓋を開けてみたら1400万人。13万の街です。伊勢市は、100倍近い以上の方が、あるいは日本の10人に1人の方が何らかの形で伊勢に来るような大変な事になっている時に、私たちの協議会がただ単に乗り物だけとか二酸化炭素出さないようなことだけとか式年遷宮だけという事ではなくて、それが全部線で結ばれていて、新たなムーブメントを作ることになるんだなということ、2年目3年目どんどん時間を重ねることによって見える化が出来て良かったなと思っています。そしたら、10回目の今日を迎えまして3年4年です。そろそろ石の上にも3年ですから、独立出来ることは独立していながら、またさらに副市長からも話がありました、それから次長から話がありました、この伊勢だけではなくこの地域を全体的な面的な広がりをもっていく中で、伊勢が持っているノウハウ、強み、もし弱みがあるならばその弱みを補うというかたちで、互いにWinWinになれるようなことを考える第2のステージに行きたいなというふうに思っております。今日は今までやってきた活動の内容をもう一度振り返ってみて、どういう事がどこまで達成できているのか、出来ていないのは何なのか、で、それをもって次の伊勢志摩サミットがちょうど5月にあるんですけど、それが終わった後は、はい終わりましたっていうかたちにはしちやいけないと思っておりますので、次の3年次の5年次の10年を占う、そういった新たなムーブメントも今日この場で考える時間になればいいなと思っております。

最後になりますけども、先ほど藤本副市長、林次長から話がありました、ESTという、分かる方は分かるんだと思うんですが、これがなかなか分かりにくい。日本語にすると、環境的に、持続可能な交通。一体どういう事なの、乗らないことなの。そういった非常に分かりにくいことではありますが、ひとつ言えることは、産業と経済と環境、社会文化をバランスよくやっていくようなものに、あらゆるもの全部が絡んでいるよねって考えると、乗り物も大切な一つの要素、むしろ乗り物は根本かもしれないなっていうことまで掘り下げてやっていこうってなってます。伊勢市はそもそも二酸化炭素をなんと30%減らそうと、世界一の目標だと私は思っております。国だって2030年、これから15年後の時に、2013年に比べて25%減らすよっていうことを、伊勢市は何とあと5年後2020年に30%減らすと。そういうことが可能なかなってことも考えたときに、出来ます。だって、1400万人が煙と二酸化炭素をモクモク出すような何らかの形で乗り物で来るという事を上手くリードしていただだけでも、伊勢市は世界トップの30%を超えるようなものが出来ます。そこ

をやっていくために一つ仕掛け作ったんですけども、伊勢らしいのがわかるように、「おかげさま Action!」。おかげさまというのは、たぶん私は日本人ではないけれど、それでも、あっ伊勢って思われるので、日本の皆さんから見るとおかげさまっていったら、伊勢だってわかると思いますし、そこのキャッチがこの時期すごかったら来た人もっていうことで、皆がお客さんとして、ちょびっと二酸化炭素だけ減らしてきよならってことではないですよ。皆が主役になれる仕組みを乗り物という事でやっていったものが今考えてみたらすごく良かったなってことで、第7回ESTのところで奨励賞を頂くとなりました。気持ち的には、参加して頂いた次長から話がありましたけども、最優秀賞以上の物を持っていると自負しております。ちなみに、最優秀賞に値する何とか大賞は民間の会社になっておりました。地方自治体としては、仙台市、伊勢市と二つの市となってるんですけども、仙台市は伊勢よりはるかに規模が大きいですし、もともと街づくりからそういった対象交通機関が走ればっていうところからみると、我々がやっている所の部分もそれだけ評価出来るような短い時間で作り上げたのも、皆さんの凄まじいエネルギーと熱い思いなんかが出来たんじゃないかなというように思いました。微力ながら、精一杯報告とパネルディスカッションのところで伊勢市を奨励賞に選んだの間違えですよ。最優秀賞に値するんですよという事を、思う存分アピールしてきたんだと思います。次、一回頂いたものがまたいつもう一度ってなるのかわからないんですけど、あらゆるアンテナを張って、伊勢志摩サミットは2日間であるんですけど、これがずっと伊勢、それからこの地域、あらゆるところによってはたかだか2日間で終わっているようなものではなくて、この地域の末永い発展のためにはとても大きなターニングポイントであったということ、この協議会でまた作っていきたいなと思っております。ということですので、今日で、はい、おしまい。といことではなくて、今日は第1段階がおわったんですが、第2ステージの方スタート地点であるということで、引き続き協力をお願いしたいと思います。話しが長くなりました。事務局の方からESTの事を会長らしいことと申すので、それを踏まえて挨拶をさせて頂きました。ありがとうございます。

## ○議題

(朴会長)

では、事項書に基づきまして議事進行させていただきます。今日は議題が3件、報告事項が6つあります。あと、その他というのがありますけども、どうかよろしくお願い致します。そしたら順番で、まずはその1の議題で、「おかげさま Action!」住む人も来た人も短期目標の取り組みについて、事務局の方から資料に基づきましてまず説明をお願い致します。その説明を頂いたのちに、委員の皆さんから質問を受け賜ります。よろしくお願い致します。

(事務局・県)

資料 3 説明

(朴会長)

ありがとうございました。ただ今資料 3 までのところですけども、質問、コメントなんかありますでしょうか。そしたらですね、次の 2 の今後の協議会の進め方についてそこまで、それから出来れば会計報告で 3 までいきまして、皆さんの意見をいただいて、必要に応じては報告事項をちりばめながら、今日はどちらかと言うとよくやりました、よくやりましたっていうことはさることながら、皆さんの意見を非常に反映した第 2 のステージに行く取り組みという所の部分にちょっと時間を頂きたいと思っておりますので、皆さんの方でよろしかったら 2 の今後の協議会の進め方、平成 27 年度の決算ですね、そういう所も、資料 4 とか基づいて説明をさせて頂きませんか。それでは皆さん含めて意見を頂く、よろしいでしょうか。事務局どうですか。

(事務局・県)

先生の仰っていただいた今後の進め方の部分で、皆さんの意見をいただけたらなと思ってるんですが、先に報告事項までさせて頂いてよろしいでしょうか。

(朴会長)

今後の協議会の進め方についてはいろんな立場からいろんな意見が降ってくると思うんですが、一応簡潔明瞭に 1 のところで○、△、×というところで、非常に厳しい目線での評価もさせて頂いたんですが、もうちょっと情報共有していくためには、下の報告事項の所をもうちょっとちりばめていただくと、ああ、なるほど。とって、じゃあ次も末永く付き合っていただくということをやっていくには、メリットが生まれてこないとどうかなってこともあるかと思うので、皆さまが考えやすい、考えられる時間を持つ意味でも、どうでしょう。今後の協議会の進め方については、ここ資料に載ってないんですが、それを 3 の決算、報告事項の所を加えていただいて、2 の今後の協議会の進め方については皆さんの意見を頂き、実は私個人的な思案であるんですけど、こういう風に考えるんですよというのをお話しさせていただく機会があればいいなと思っているんで。皆さん途中で切れるような気がするの。折角資料でありますので、先に中盤は変えていきましようかね。いかがでしょうか。

(事務局・市)

資料 4 説明

(朴会長)

ありがとうございました。ちょっとオーソドックスな進め方をして、皆さんに混乱を招いているかもしれないけれど、協議事項は皆さんから了承を得なければ出来ないんです。そういうことで、1の所で皆さんに了承を得ていません。それから3の会計。それから裏のページの28年度の予算。それを含めて了承を得るために、3の所の報告事項。例えば、平成27年度にはどういうところにどれだけ予算があったのかという内訳があったんですが、それがどういう内容に結びつくのかというのをしやすくしていくためには、報告事項のところに先にいかさせていただきます、これがこう、これがこうというように皆さんに頭の中で繋げられるような説明があった後に、皆さんからの了承を得て、それから今後の協議会の進め方について議論した後に、大まかなところを決めさせていただくというような手順でいきます。よろしくお願い致します。

事務局大変だと思いますが、報告事項1~6を、それからその間もたぶん兼ね付けられていると思いますので、4のその他の二つの部分も合わせて、ゆっくり説明をよろしくお願い致します。

○報告事項

(事務局・市)

資料5説明

(三重エフエム放送株式会社 西川氏)

資料6説明

(伊勢商工会議所 吉川氏)

資料7説明

(タイムズ24株式会社 野口氏)

資料8説明

(NTN株式会社 村松氏)

資料9説明

(三重交通株式会社 中林氏)

資料10説明

○その他

(事務局・県)

資料 11、12 説明

(NTN 株式会社 袴田氏)

桑名市に工場と研究施設があります。地元の企業という事で、サミットで支援をしたいとお願いをしています。インホイールモーターの性能を実証、良さを PR していきたいということで、コンパクト車両、軽自動車を改造して、インホイールモーターで駆動するようになった電気自動車を提供するよう準備をしています。また、小型の風力発電設備も、サンアリーナ等で使ってもらうよう支援しています。

桑名で開催のジュニアサミットには、研究施設の見学をしてもらって、電気自動車や風力発電機、植物工場等、弊社の環境の取り組みについて勉強の足しにしてもらうようすすめています。

(三重日産自動車株式会社 長岡氏)

電気自動車活用事例創発事業として、E-NV200 を日本で 200 台強 3 年間無償貸与。三重県全体では 7 台を無償貸与しています。三重県、津市、伊勢市、志摩市、鳥羽市、多気町のまごの店、環境省に 7 台を無償提供ということで、2 月 2 日に伊勢志摩鳥羽合同で貸与式を行った。それぞれの貸与式もすべて完了して 7 台を使って頂いています。伊勢志摩地区に今回多くを貸与させていただいて、伊勢志摩サミットを絡めてアピールしていただきたいと考えています。

(日東工業株式会社 豊福氏)

EV・PHV の普通充電器のメーカーになります。サンアリーナの充電器に採用いただきました。今年度は特に補助金を活用しながら、JTB と宿泊施設等への整備をすすめさせていただきました。来年度は商業施設や集合住宅、従業員用の駐車場用の充電施設整備に国が力を入れて進めていくので、それにあった製品の開発を進めています。従業員用の駐車場等を整備することによって、EV・PHV の導入が加速するような動きに協力していきたいと思っています。

(朴会長)

資料 13 説明

○議題に戻る

(朴会長)

議題の2のところに戻りまして、主な説明の資料として作成した3、平成27年度の決算、28年度の予算の資料4、のところについて、報告事項のところも含めて皆さんの了承を得ないとならないんですが、了承を得る前に質問、コメントなど承ります。

よろしいでしょうか。

それでは資料1、おかげさまアクション～住むひと、来たひと～の短期目標の取り組み状況の事務局説明の資料3、(3)平成27年度予算にかかる会計報告について、28年度の予算に係るものもあつた資料4、了承されました。ありがとうございました。

最後に残っているのが、(2)今後の協議会の進め方についてということなんですが、いきなり意見をいただくのも良いことだと思いますが、時間の制約なんかもありますので大きなテーマを3つくらい整理をさせていただいて、これは今までやってきたことが全部繋がるんだらうということで、事務局とも相談をしながら整理をさせていただきました。3つの提案であります、資料を配らせてもらいます。

この全ての責任は私にありますので、皆さまの了承を得た時には皆さまと一緒にやっていくということで公的なものにさせていただきます。遠慮なしに、文言の整理やテーマ設定も意見を頂ければとおもっております。

今後の取り組みの方向性について、3つほど言えるのではないかと思います。先ほど藤本副市長からも話がありました、伊勢を拠点としたEV等を用いた広域連携による観光文化の活性化。ここで申し上げる観光というものは、3番にも繋がっていくんですが、地域に隠れた地場産業、あるいは皆が分かっているような産業というのも踏まえて、皆が幸せを感じてまた来たいという表現がいまのところ観光としているんですが、その裏には地域創生というところが隠れていると思って頂ければと思いますし、よりいい表現があればそちらに変えさせていただく事になります。分かりやすくサブタイトルを付けさせていただきましたが、近隣市町、あえて何々市町と列挙しておりませんが、三重県は29の市町がありますが、近隣市町による山・里・川・海を繋ぐ観光。山里川海と表現したのは、伊勢湾も山々も川も素晴らしいものがあるんですが、当たり前のように思われるので、その価値を忘れてるんじゃないかなということで、里の中から人と自然との良い関係、人と人との良い関係。人と言うのは環境との関係を含めた意味として考えていました。表現も直して頂けるとありがたいですが、提案させていただきました。

2番目。持続可能な社会。これが経済と環境のバランス。社会、文化の多様性、いろんなものを踏まえて新しく言葉を作り上げていくために、まずは身近なところから始めませんかというところで、暮らしの環境活動の促進というように考えて見ました。そこで根幹を担っているEVというのは私たちの協議会においては大変重要なテーマでありますので、まだまだ普及啓発が必要ですが、そこにEV等普及啓発による若者、この若者は先ほど定義がないと、60歳以下でも若いと言ったら若いです。0歳でも若者だと思っております。若者



への実践環境教育の加速化。教育と言うと偉そうですが、学びと成長と考えました。COP21のところで全世界195か国が全部やるという事を5年以内に決めないといけないという宿題もあったので、国も温対法の改正や環境政策というなかで、低炭素社会という二酸化炭素を減らすということは絶対必要となってきますので、先取りと言う意味で実践環境教育の加速化ということで、活動の見える化をしていくということを考えました。

3番目。産業経済と環境は仲良く出来ますよということで、環境ビジネスを考えてみました。環境と調和した地場産業。地場産業がいいのか、地域産業がいいのか考えなければならぬんですけど、地場産業、一次産業から六次産業まであらゆるところのものを、今回のEV等を用いた低炭素社会を作るというところの、一つのきっかけにして活性化していく。それで地域創生のトップランナーになるんだということで、地域創生の推進。言葉として、適当な言葉が間に合わなかったのが、低炭素型地場産業による環境ビジネスの創出。何かをやっていくことによって、どこかが光と影になっては駄目で、皆がWinWinWinになっていくようなことは伊勢であるんだよということで、この3つ、多少分かりにくい所もあるかと思いますが、第2段階においてはこういったキーワードを拾った形でやっていって、実際やっていくのは第1ラウンドで行った部会とかワーキンググループとかそういったところから、1、2、3に対して実際に係わる部分が生まれてきたらいいんじゃないかということで提案させていただきました。あと10年6年7年で出来るかなというところもあるかもしれませんが、やってみなければ分かりませんのでそういう感じで提案させていただきました。それについて、今後の協議会の進め方も関係しているので、忌憚のない意見をいただいて、出来れば3つくらいの柱が決められたらうれしいですが、いかがですか。

(菊川副会長)

まず、この低炭素社会創造協議会が発足して3年以上がたったということで、この件につきまして事務局をしていただいた三重県さんに伊勢市を選んでいただいたということにたいして、お礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。当時、まだ松下副市長さんがご出席されていたのを思い出しながら、朴会長さんに大所高所から積極的な働き掛けをしていただきまして、参画企業さんに積極的に参加をしていただいて、また多大なご負担をいただいたということにたいして、お礼を申し上げたいとおもいます。

4月1日が入社式という事で、私も会社を運営しておりますので、何かインターネットで参考になる事がないかなと思ったら、非常にいい記事を見つけました。高校の担任の先生が時間割を示したと言う記事でした。一時間後と二日後と三週間後と四か月後と五年後の時間割でした。その下に宿題が出ているんです。宿題は、幸せになりなさいと書かれていました。やはり低炭素社会を求めると言う事は、目標設定だったと思うんです。目標を果たしていく為には、たくさん問題点を解決していかなければならないということで、事務局の方々、企業の方々に問題点を潰していただいて今日に至ったというふうに思います。

本当の目的は何だったのかと考えると、ここに示していただいた、広域連携を果たす環境活動を通じて一つになっていく、それと持続可能な少子化の中で、持続可能な環境モデルをつくっていくことによって、これから地域を創生していく目標設定は素晴らしい。わたしは、朴会長が示した 3 つの方向性は、目的を達成するための課題だと捉えさせていただきました。

(藤本副市長)

今副会長さんにもおっしゃっていただきましたが、1つ目は、外から来ていただいた方に環境を大切にしてもらおうという視点です。2つ目は、この地域に住んで頂いてる方に環境を大切にしてもらおう。3つ目は、この環境というものを仕事にしていく、儲けにしていく。こういった 3 つの視点で先生は書かれたんだろうなと思います。ただ 1 点だけ、1 番 2 番 3 番とも、この 3 つが合わさって地域の創生が図られるのかなという気はします。最後の地域創生の推進というのは、すべてに係ってくるのかなと思いました。以上です。

(朴会長)

非常にありがたいですね。環境と調和した地場産業の活性化ということで、地域創生を一番上にもってきてやっていきましょうか。

ありがとうございます。

(豊田通商株式会社 浅井氏)

若干違和感を感じているのは、もともこの協議会は電気自動車を活用したというのが枕詞にあったような感じがするんですが、こと取り組みの方向性からするともう少し広域で低炭素ということで進んでいる気がしますので、この枕詞を変えた方が参加される方も広がって来るんじゃないのかなと思いました。

(三重県タクシー協会 景山氏)

折角伊勢をとという事なら、歴史的な遺産を入れていただけたらと思いました。

(伊勢市観光協会 西村氏)

観光協会の立場としては少し違うんですが、東北大学の先生が志摩でシンポジウムをされるということで、ライフスタイルを研究されている方で、お話しを聞きに行ってきたんです。その最たることというのは、持続可能な社会を作るためのライフスタイルを考えようといったもので、その指定地区で豊岡市、北上市、沖永良部島の 3 地区、4 地区目として島が選ばれたということです。古川さんともお話しをする機会がありまして、伊勢志摩全体にこれを広めたいということで、バックキャストिंग、以前使っていた技術を少し不便だけでも、そちらにすると持続可能なものになりますよということで。私も、電気自動

車の方を貸与して頂いて、何とか使おうとしたんですが、仕事上荷物を積んだり、人を乗せなければならないということになかなか使いあぶれてたなかで、更に朴先生から提案頂いた自転車、伊勢市駅に 20 台置かせていただいているんですが、晴れた日はほぼ全部出ていくかたちで、フル活動でさせていただいています。バックキャストみたいな考え方を取り入れていく、車ですと早いし楽であるけど、周りが早く過ぎてしまって観光の途中を楽しめないし、ガソリンを使うので持続可能ではない。自転車は、遅いし体力的にも辛いけど、周りを見て頂けるし持続可能なものである。

今回先生に書いて頂いた 2 番目ですが、持続可能な社会創造に向けた暮らしの環境活動と書いていただいているんですが、僕はライフスタイルの方面を進めたいと考えておるところです。自転車のレンタサイクルなんですが、問題は伊勢市は道路が狭いということがありますし、貸し出しシステムも、もう少し踏み込んだところに行きたいですし、お客さんが乗り捨てられるシステム、拠点の増加も考えていきたいと思っておりますので、EV 等という等をうちは使わせていただきたいなと思います。

(伊勢おはらい町会議 前田氏)

先ほど言われた、電気自動車等という言葉が付いていることで、なかなか動きが取れなかったというのが感想です。低炭素化という部分で、幅広く考えていくことで地域の住民の私達も活動できていくのではないかなと感じますので、壮大な目標と言うのは、意外と自由がきくのかなと思いました。ありがとうございます。

(伊勢市環境生活部長 坂本)

振り返ってみると、あっという間のほぼ 4 年で、産官学が一緒にさせていただくことによっているんなことが出来たのかなと思っております。

今後の方向性で、朴先生からお示しをいただいております。伊勢市としましては、「おかげさま Action！」は中長期の計画がございます。もしこの協議会がなくなっても、伊勢市としては引き続き行動計画に基づいて進捗管理をするつもりでおります。取り組みを拡充していきたいという思いがございますので、この取り組みが更に拡充していくように伊勢市の頑張っていきたいと思っておりますので、皆様のご協力が頂けるのであれば、進めていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

(伊勢市産業観光部参事 須崎)

今後の取り組みの方向性を見させていただいて、この方向性があって電気自動車があればやりやすかったかなと思いました。何故かと言うと、最初から電気自動車はテーマになっておりましたので、観光課の方で何とか商品化出来ないかということで焦りがありました、幸いにもようやくタイムズさんが商品化していただいたということで、観光の担当としましては、お金に繋がる事を考えないと動いていけないということもありますので、今

後は観光局の方がどうやって電気自動車を活用して、より多く商品に出来ていくことを考えていながら今後の取り組みに向けていきたいとおもいますので、また皆さまご協力お願い致します。

(朴会長)

ありがとうございます。では、皆さまの話を聞きながら、あまり変えないで若干の修正によって活かされるのかなと思って、3点の提案をさせていただきます。

平成28年4月からの協議会のネーミングなんですけど、そのまま使うんですが、「電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造（地域創生）協議会」というふうになっていくとやりやすいんじゃないかというのが1点、伊勢は観光文化がいっぱいあるんじゃないかということで、一番上の伊勢を拠点としたEV等を用いた広域連携による観光文化の活性化、その下の山・里・川・海を繋ぐ観光はそのまま生かす。

2番の所で、ライフスタイル。暮らしの環境活動、ライフスタイルの促進と言ってもいいんですが、カタカナを出来るだけ使わないで出来ないかと思って暮らしの環境活動という言葉を使っているんですが、持続可能な社会創造に向けたライフスタイルの推進としてもいいんですが、カタカナと環境活動をどうやって融合すればいいか、ご意見いただきます。

3番、環境と調和した地場産業の活性化の促進として、上を暮らしの環境活動をライフスタイルの推進でもいいし、地域創生というのを一番上に持ってきていますので、活性化の促進、あるいは推進と変えれば、大きく変えないで皆さんから出たものがほとんど入るのではないかなという提案です。私があえて日本語にこだわるのは、1300年続いている式年遷宮とか考えると。西村さんにもう一度意見をいただきたいんですが。

(伊勢市観光協会 西村氏)

最初、観光スタイルとか周遊形態とか、伊勢を巡るスタイルを考えてもらおう。いくら地域内で持続可能な社会を目指そうとしていても、観光地としていけばお客様が入ってきますので、その方にもそれに沿って頂くのが重要になってくると思うんです。なので、生活様式が日本語になるんですが、それだと意味合いが変わってくるので、出来ればライフスタイルのほうがぴったりかなと思うんですが。その中に観光というのも入れると、周遊の形態とか観光スタイルとかというのも入ってきますので、持続可能な社会を維持するための事だと思います。

(朴会長)

よく分かりました。皆さんどうでしょうか。さっき西村さんがバックキャストという難しい概念もおっしゃっていたんですが、そのまま使いたいんですが、そうなると説明が難しくなるので、若干カタカナが入るんですが考えました。

持続可能な社会創造に向けたライフスタイルの推進。下に、環境と調和した地場産業の

活性化の促進。そうなる、違和感なく入るかなと思いますが、西村さんどうでしょうか。

(伊勢市観光協会 西村氏)

2 番目はそうだとおもいます。3 番目もわかりました。

(朴会長)

今日出された意見のほとんどが入ったのかなと思いますが、どうでしょうか。

では、この場で今日出た 3 つの柱の部分については了承を得たと。語呂の事とか地元の方が受け入れられるイメージとかいいのがあったら、また変えながら発展形でやっていくのは可能です。柱は変えないで、継続性、発展性、将来性を見込んだもので、子供から大人間で、住む人も来た人も、みんな入るような形のもので、EV 等というかたちでやってきたものを生かして、低炭素社会を作るというところで、地域創生を前面に出した名前を付けることによって、シナジー効果で、伊勢だけではなく、三重県、日本、世界を動かすようなところまで行くぞと言うところを表すことになるのかなと思います。基本的に了承いただいて、その都度もっといいのがあったら変えていただくという、発展的な了承という事でいかがでしょうか。

よろしいですか？

事務局よろしいですか？ありがとうございます。そしたら、皆さまのおかげで 3 つの柱出来ました。ありがとうございました。

○事務局閉会挨拶

(閉会) 15:45